



Hikone Omoide Photobook

ひこね 思い出 フォトブック



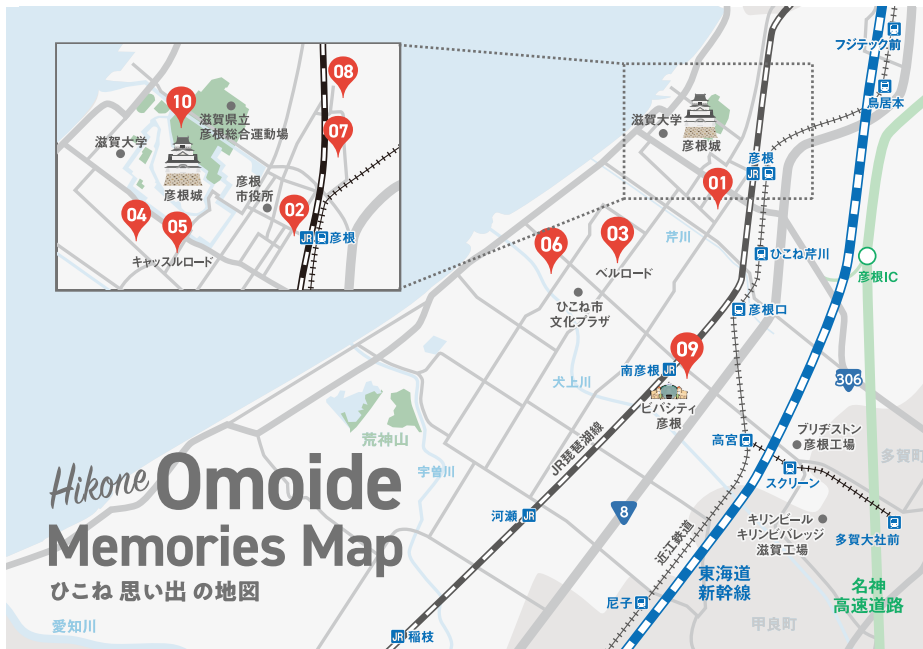
いつも通る何気ない日常の風景も
誰かにとっては思い出の場所
写真に込められた想いに触れて
かけがえのない思い出の旅へ



Hikone Omoide Photobook

ひこね 思い出 フォトブック





contents

- | | | | | |
|--------|----|--------------------|---------|------------------|
| P04-05 | 01 | 卓球台が繋ぐ思い出のラリー | 彦根市京町 | 外馬場公園のコンクリート製卓球台 |
| P06-07 | 02 | 長年愛される地元のデパート | 彦根市大東町 | アル・プラザ彦根 |
| P08-09 | 03 | 出会いとつながりは一生の宝物 | 彦根市平田町 | ナマステ・ネパール(レストラン) |
| P10-11 | 04 | 子供の頃に思いを馳せて | 彦根市城町 | 城西小学校横の路地 |
| P12-13 | 05 | 甘酸っぱい私たちの初デート | 彦根市本町 | 夢京橋キャッスルロード |
| P16-17 | 06 | 家族との思い出が詰まった公園 | 彦根市開出今町 | 庄堺公園 |
| P18-19 | 07 | “秘密の場所”から“おすすめの地”へ | 彦根市古沢町 | 仙琳寺と鉄橋 |
| P20-21 | 08 | 過去と未来に思いを馳せて | 彦根市古沢町 | 大洞弁財天 長寿院 |
| P22-23 | 09 | 初めてのお揃いを“映える”一枚に | 彦根市竹ヶ鼻町 | 「ビバシティ」二階の白い壁 |
| P24-25 | 10 | 父が見つけたとっておきの場所 | 彦根市金亀町 | 金亀公園の並木 |

—— 各ページのQRコードをスマートフォンで読み込むと詳しい場所がわかります ——



あなたはその場所に
どんな思い出がありますか？

Hikone Omoide Photobook とは？

彦根での思い出のエピソードを取材して、
その思い出の内容と景色を1冊の本にまとめました。

楽しい気持ち、嬉しい気持ち、寂しい気持ち、
言葉にできない気持ち。

何気ない風景の中に、誰かの思い出を重ねて思いを馳せて、
その時、その場所でどんな気持ちだったのかを想像してみてください。

そして、もし「あなただけの思い出の彦根」があるとするなら、
その場所を大切に作るきっかけになると嬉しいです。



📷 石の卓球台 側面

横から見ると欠けた部分から
工作の構造が伺える。



📷 不思議な光景

彦根の中でもマニアックなスポット。
ぜひ訪れてみては？



📷 公園にひっそりと佇む 石の卓球台

豊かな自然に囲まれた
公園の片隅にある卓球台。
初見で見つけるのは難しいだろう。

思い出の場所
01

外馬場公園 石の卓球台 卓球台が繋ぐ思い出のラリー



彦根市京町
外馬場公園



原 惇雅さん
(70代)
彦根市在住

インタビューー
藤嶋 祐伍
カメラマン
藤嶋 祐伍

「昔、こつこつ経緯で僕たちが作ったんだよ」といふことを知ってもらえたら嬉しいですね

どのようなきっかけで卓球台を見つけたのですか？

近くの病院に行ったときに、たまたま通りかかって見つけた。私は健康のために毎日二万歩を歩くことを目標に犬と散歩するのを日課にしていて、その途中で中央公園のあたりも通るのですが、普段は夜に通ることが多いので気づきませんでしたね。偶然目に留まったのですが、見覚えのあるものだったのでとても驚きましたね。

この台の形に見覚えがあったということですが、どういったことでしょうか？

多分ですけど、私の母校である西中学校の卒業制作で作ったものです。経緯はわかりませんがもともと西中のグラウンドにあったものが今は中央公園にあるみたいですね。

卒業制作で卓球台、なかなか珍しいですね。

当時、工作という授業の「職業」担当の先生がいて、その先生がコンクリートを使って何か物を作る指導ができる方でした。その先生が言い出したのか生徒に卒業制作の希望を募ったかは覚えていませんが、みんなで工夫して思い出に残るものを作ろうと、アイデアを出し合った結果、コンクリートの卓球台になったのだと思います。

「職業」という担当の先生がいらっしゃったんですね。

はい、僕らの中では名物先生で今でもとても印象に残っています。また、この先生と後輩が何年後かに時計台を作ったらしいです。

当時の思い出はありますか？

いのですがこれもまたユニークな形をしていて、一度テレビ番組で紹介されたこともありました。この卓球台もいつか時計台のようにみんなに注目される存在になってほしいですね。

この卓球台の存在を当時の同級生は知っていましたか？

はい、この卓球台を見つけたときすぐに同級生に連絡を取りましたが、やはりコンクリートの卓球台を作った記憶があると言っていましたね。ただ、いっこのようにして現在の場所に置かれるようになったのかを知る人はいませんでした。

来ませんね(笑)。

この卓球台の存在を当時の同級生は知っていましたか？

はい、この卓球台を見つけたときすぐに同級生に連絡を取りましたが、やはりコンクリートの卓球台を作った記憶があると言っていましたね。ただ、いっこのようにして現在の場所に置かれるようになったのかを知る人はいませんでした。

今でも同級生と交流が？

コロナ禍になる前は二か月に二回20人ほど集まってランチをしていました。同級生のメール連絡網があって当時はそこで招集がかかっていたんです。「ZINグループではなくてメール連絡網なのが僕ららしくて面白いですよ(笑)。今でも少人数ではよく会っています。

同級生と当時の話はされますか？

はい、当時の話になるとみんな元気になって話すので、学生時代に戻ったような気分になります。話は尽きないので数時間話し込んでしまつて、みんななかなか帰らないですね(笑)

卓球台の制作者として何か伝えたいことはありますか？

難しいかもしれませんが、卓球台をもつ度中学校のグラウンドに戻したり卓球台の近くに看板を立てたりして中学の後輩や先生子どもたちに「昔、こつこつ経緯で僕たちが作ったんだよ」といふことを知ってもらえたら嬉しいですね。そして自分たちが放課後に遊んでいたようにこの遊び場になればもつと嬉しいです。また、60年も前のことで忘れてしまつていることも多いので、この機会にたくさんの人にイベントを知ってもらつてほしいです。と詳しく知っている人に出会えたらお話を聞いてみたいです。



📷 フードコート

当時フードコートだった場所は現在も憩いの場として残っている。



📷 現在の屋上

昔の面影はなくなっているが、彦根城も一望できる穴場的スポット。
※現在は閉鎖



📷 駅前から見た「アル・プラザ彦根」

彦根駅を降りると最初に目につく彦根駅前のシンボリック建物。

思い出の場所
02

今まででもこれからも身近な場所
長年愛される地元のデパート



彦根市大東町
アル・プラザ彦根



PN
Y・Yさん
(会社員)
犬上郡在住

インタビュー
藤嶋 祐伍
カメラマン
藤嶋 祐伍

たくさんの人に立ち寄ってもらえる場所であればいいと思います

最初に「アル・プラザ彦根」を訪れた時のことは覚えていますが？

自分の中の一番古い記憶は、この一階に有名なドーナツ屋さんがオープンしたときですね。このドーナツ屋さんで初めて父に連れてきてもらいました。

お父様との思い出を教えてください。

今ではドーナツを自分で直接選んで買うというスタイルは一般的になっていますが、当時は珍しくとてもワクワクしたものです。選んだドーナツを父と一緒に食べたことがとても記憶に残っています。たっさんの味のドーナツを食べたくて父や姉妹とシェアして食べました。

当時と今で雰囲気の変化はありますか？

時代の変化もあり、少しお店の数が少なくなりましたように感じますが、当時の面影が残るような場所もたくさんあります。そのような場所を通るたびに懐かしさを感じますね。

当時は屋上にも入れたという話を聞いたことがあります。入ったことはありますか？

屋上に行った記憶はありません。アル・プラザ彦根の屋上かどうかは記憶が定かではありませんが、当時はゲームコーナーや遊具などが屋上にあり、そういう場所にも連れて行ってもらいました。最近ではスパーやデパートの屋上にそのようなアミューズメント施設がある場所はありませんように感じるので少し寂しいですね。

学生時代にもよく通っていたそうですね。当時の思い出を教えてください。

よくフードコートを使っていました。地下にたこ焼きや焼きそばなど様々な店舗が入っているフードコートがあったのですが、価格もとてもお手頃だったので「今日はこれ食べよう」とみたいな感じで毎日のように学校帰りに友だちと寄っていました。そこでお菓子や軽食をつまみながらした何気ない会話や恋バナが今となってはいい思い出ですね。

学生時代のYさんにとって「アル・プラザ彦根」はどのような場所でしたか？

自分が学生の頃は今みたいにたくさんお店がなかったように思いますが、自分たちにとっては思い出深い場所です。なかあれば「とりあえずアル・プラザ集合」という流れだったので気軽に立ち寄れる場所でしたね。

社会人になってからも利用しているのでしょうか？

家からの距離が少し遠くなってしまったので行く頻度は減りましたが、市役所が入っていた時期は会社の書類の手続きなどで足を運ぶ機会が多かったです。また、最近新しくできた雑貨店などによく焼菓子を連れていきます。いろんな商品があつて面白いですよ。

Yさんにとって「アル・プラザ彦根」とはどのような存在ですか？

小さいときからずっと身近にある場所なので「あるのが当たり前」みたいな場所です。物心ついた時から大人になった今でも変わらない場所があることは、とてもありがたいことですね。

今後「アル・プラザ彦根」はどんな場所であってほしいですか？

彦根の駅前が活気つくような、たくさんの人に立ち寄ってもらえる場所であればいいと思います。かつては、6階のレストラン街に京都に行かないと食べられないお店があったり、有名チェーン店の彦根第一号店を出店したりと、「アル・プラザ彦根」は彦根で最新のものを一番に取り入れる場所というイメージがあります。今後そんなお店が入ることによって変化していくのが楽しみです。

思い出の場所
03

みんなの笑顔を作る「ナマステ・ネパール」
出会いとつながりは一生の宝物



左から店長、野原さん、奥さん

インドやネパールの挨拶として使われる「ナマステ」ポーズでハシヤリ。

「ナマステ・ネパール」で3年間のアルバイト
素敵な思い出を紐解きます

野原さんが「ナマステ・ネパール」でアルバイトをするきっかけについて教えてください。

私は、大学1回生の時に友達とたまたま「ナマステ・ネパール」を初めて訪れました。その時にチースナンを食べたのですが、そのおいしさに思わず笑顔がこぼれました。まずチーズが伸びる！切れないことにも驚きましたし、パンも甘し、チースも甘い。そして熱々で…何でしよつ、「こんなにおいしいものを食べたのは初めて！」という衝撃を受けました。手に取った瞬間からチーズが伸びるのが楽しくて、食べた時もおいしかったんです。そのおいしさが忘れられず、バイトを始める前からお客さんとして通っていました。その時に奥さんは私のことを覚えていてくださって、「また来てくれたのね、ありがとう」と言ってくださるし、店長はモチンの隙間から微笑んでくださりました。その雰囲気も温かくて、また行きたいという思いが強くなりました。それが、バイトを始めるきっかけです。

店長さんや奥さんの温かさが決め手となりバイトを始められたのです。

そうですね。バイトに入った後も、私は飲食業が初めてだったのですが、奥さんは丁寧に教えてくださり、店長は「今日のカレー」のポイントを教えてくださいました。

働いてみただけからそわかる「ナマステ・ネパール」の魅力は何ですか？
やっぱり、一人一人のお客さんと向き合う心だと思っています。一人で来られるお客さんに対しても、団体で来られるお客さんに対しても、その人たちに、また食べてもらえるような丁寧な対応をしているところが素敵です。味がおいしいのは大前提なのですが、それに加えて、お客さんに対する思いがとても強いです。そこが「ナマステ・ネパール」の魅力ですかね。

野原さんは教員を目指していらっしゃると聞きました。「ナマステ・ネパール」で得た学びや思い出がどのように生きてくると感じますか？
私が「ナマステ・ネパール」で得た一番大きな学びは、「人とつながることの大切さ」です。このバイトでは、食を媒介として人とつながることを3年間で経験してきましたが、教員は子ども、保護者や仲間とも…いろいろな人とつながる職だと思っています。教員になっても、人とのつながりを大切にしていきたいと思っています。

野原さんにとって「ナマステ・ネパール」はどんな存在ですか？
ばつと浮かんだのは、「今の私を作った一部」ということです。人はいろいろな経験をしてその人の価値観が作られたり、考え方が形成されたりすると思いますが、「ナマステ・ネパール」は、今の私の価値観や考え方の一部を作ってくれました。3年という期間を通して人と向き合うときの謙虚さ、心構えやつながりや学べた経験が、人に対する気遣いに生きています。このように行動できるようになったのは、「ナマステ・ネパール」の存在があったからです。これからも、たくさんの方に「ナマステ・ネパール」に来てほしいと思いますし、素敵な思い出を作してほしいです。

最後に野原さんのおすすめメニューを教えてください！
カレーもナンもたくさん種類があるので、迷ってしまうんですよ。初めて来店されるお客様には、定番のチキンカレーやキーマカレーがおすすめです。カレー上級者の方は、ぜひブラウンバターマサラマントマサラ、チキンティッカマサラを食べ比べてほしいです。私が衝撃を受けたチースナンはもちろん、キーマナン、ガリークナン、カボチャナンも試してみてください。どのカレーにもそれぞれのおいしさがあるので、味比べしてみるのも楽しいと思いますよ。



おすすめセット

プラス200円でプレーンナンをチースナンに変更可能。チースナンは誰でも感動するおいしさ。カレーと相性抜群のマンゴーラッシーもおすすめ！



定番メニューのプレーンナン

顔よりも大きなプレーンナン。こんがりとした焼き目にバターのとやが光る。香ばしいカレーにぴったり！

彦根市平田町
ナマステ・ネパール

野原 桃香さん
(20代・大学院生)
大津市在住

インタビューー
福岡 咲和

カメラマン
福岡 咲和



📷 路地から見る彦根城

古い町並みの路地から見える彦根城。時間帯や天気によっても景色が変わる。



📷 城西小学校横の路地

城西小学校のフェンスの横に入った路地。外の道とは雰囲気が変わって昔ながらの町並みが広がっている。



📷 ツリーハウスさんとお子さん

城西小学校横の路地に立ち、親子三人で撮影した写真。彦根城が綺麗に見える。

思い出の場所
04

変わらない町並みで懐かしむ祖父との思い出
子供の頃に思いを馳せて

ここに居なくても「今も大切な人だ」と側に感じる事ができるんです

この場所に初めて訪れたのはいつですか？

ええ、いつだろう。結構最近で、2、3年前くらいかな？路地に面した道はよく通っているのですが、路地の中を通ることはほとんどなかったから、路地の中に入ってみると、小学校の運動場のフェンスの横あたりから路地に少し入ったところから見る景色が結構好きでした。

応募時に送ってくださったエピソードには、「祖父のことや子どものころの大切な思い出が蘇る」という風に書いてくださったので、お子さんのころから行っていたのかと思いました。

今は移転したのですが、前にこのあたりに彦根市立病院があったので、そこにおじいちゃんが入院していて、よくお見舞いに行っていたことを思い出します。小学生くらいのお城と見えたかな。フェンス越しの角度も良いし、なんか町並みとお城とが見えて、緑もあって良いですね。この場所ですら爽やかな風の匂いを嗅ぐとおじいちゃんのことを思い出して、ここに居なくても「今も大切な人だ」と側に感じる事ができるんです。「見普通の路地ですが私にとっては落ち着く場所です。」

今のお子様くらいの年齢ですね。ずっと彦根にお住まいなんですか？

ずっと彦根で、2時期は長浜市のほうにも行っていたのですが、ほとんど彦根市です。一人暮らしをしても滋賀県内にいたかな。

彦根のどういったところが好きですか？

お城や琵琶湖もありますし、「イオンタウン」の方のトンネルから出てくる感じのところが好きで。仕事や人間関係で落ち込んだ時に気分転換に車で走って行って、気持ち切り替えるときにここを訪れていたんです。トンネルを抜けたときの景色を見るん、やっぱりここで頭張るっ！と自分を奮い立たせてくれて、勇気を貰えます。この場所にはどのくらいの頻度で来るのでしょうか？

仕事の関係で週に2、3回は通るかな。あとは、この路地を通り抜けたらお城の外堀になるでしょ。あつち結構桜の時期とか、秋の紅葉の時期にライトアップしているから行くこともありますが、新しい建物もあるし便利になっっていくけど、残しておきたい町並みです。

私もいつもこの道は通っているのですが、エピソードを送っていただいて改めて良いなと思いました。路地に入った途端雰囲気が変わりますよね。この場所を人におすすめするとしたら、どの時期や時間帯が良いですか？

やっぱり青空のときが良いかな。でもちよと雲があってもとも良いと思います。夜のライトアップの時はまた結構雰囲気が変わって、お城が緑とか青に照らされているときもありますしね。この道から見るお城が青く灯っていても綺麗なんです。彦根は車で通りますと気がつかないようなところが多いので、歩いてゆっくり景色を楽しんでほしいと思います。

私もいつもこの道は通っているのですが、エピソードを送っていただいて改めて良いなと思いました。最後に、どうしてこの場所がお気に入りなんですか？

そうですね。フェンス越しの角度も良いし、なんか町並みとお城とが見えて、緑もあって良いですね。この場所ですら爽やかな風の匂いを嗅ぐと、おじいちゃんのことを思い出して、ここに居なくても「今も大切な人だ」と側に感じる事ができるんです。一見普通の路地ですが、私にとっては落ち着く場所です。仕事や家事で忙しい日があっても、この場所を車で通るとほっこりするんですね。他の角度から彦根城を見るよりも、この角度から見る彦根城が私には、一番心地良いんです。この場所を他の人が見たときにどう感じるかはわからないけれど、私にとっては周りが変わってもいつまでも変わらない、心が落ち着く場所です。

彦根市城町
城西小学校横の路地

PN
ツリーハウスさん
(40代・介護職)
彦根市在住

インタビュー
杉本 実優

カメラマン
杉本 実優

思い出の場所
05思い出を語り合い、二人で笑い合う
甘酸っぱい私たちの初デート📷 初デートの場所を
歩くお二人

町並みを眺めながら、
食べ歩きを楽しむなど、
ゆったりとした雰囲気
でデートを楽しむことができる。

📷 コロッケと
メンチカツを
はんぶんこ

お互いに見つめ合う姿が
ほほえましい一枚。

📷 デート風景を
前からパシャリ

楽しそうにデートを楽しむお二人の様子。
満面の笑みが輝いている。

彦根市本町
夢京橋キャッスルロード



PN
K・Yさん
(20代・社会人)
守山市在住

インタビュー
福岡 咲和
カメラマン
福岡 咲和

**初デートで訪れた「キャッスルロード」
コロッケとメンチカツを分け合った思い出**
彦根市にお住まいでなかったと伺っていますが、初デートの
場所に彦根市を選んだのはなぜですか？

たまたま「ちよつこ」が「ここか行こう」ということになって、行き
先を考えていました。その結果、以前から行ってみたい彦根
市に行くことになりました。彦根市の観光先として、彦根城や
キャッスルロードが真っ先に思い浮かび、行ってみたいことにしま
した。2人とも初めての場所だったので、とてもワクワクしてい
ました。

そうなんです。どのくらい前に来られましたか？

1年半前くらいでした。11月くらいで、秋から冬にかけての
寒い時期でしたね。その上、途中から雨も降ってきました。そんな
あいにくのコンディションでしたが、初デートだったので、と
ても緊張していたのを覚えています。「写真撮ろう」と言うの
も恥ずかしかったです。今日は初デートぶりに来ました。あ
の日は対照的に、天気が良くて、とても気持ちいいです。

**初デートでコロッケとメンチカツを召し上がった聞きまし
た。**

そうですね。出来立てで温かそうなコロッケが売られてい
て、とてもおいしそうに見えました。お店の前に来た瞬間、
「絶対食べたい！」と思いました。緊張していたので、「コロッ
ケ食べたい」と口に出して言えませんでした。でも私が見て
いたので、彼が「食べたいのかな」と気づいてくれました。「食
べろ？」と彼が言ってくれたのですが、私はコロッケとメンチカ
ツのどちらを食べようか迷ってしまっ。その時に、彼がどつ
ちも買ってはんぶんこしよう」と笑顔で言ってくれたんですよ
ね。「優しいな」と思いました。とても温かい気持ちになりま
した。

その時はどんなことを感じましたか？

ちゃんとしたデートは初めてだったので、とても緊張してい
たのですが、コロッケとメンチカツのおかげで緊張がほぐれ、距
離が縮まりました。食い意地が張っているところを見せしま
いしましたが、そこも笑ってくれて距離が縮まったのだと思いま
す。最後に雨が降ってきて、2人ではしゃぎながら車まで走りま
した。雨は残念でしたが、突然のハプニングも一緒に楽しめる人
だなと思いました。初デートのドキドキとバタバタを思い出す
と笑えてきて……とてもいい思い出です。今でもあの時のこと
を話題にするんですよ。

「キャッスルロード」には他にも見どころがたくさんありま
すが、K・Yさんたちのような若いカップルにおすすめしたい楽し
方を教えてください。

そうですね。「キャッスルロード」は街並みがすごくきれいな
ので、お互い歩いている姿を撮り合おうと思いたいと思います。後
から見返すこともできるのでおすすめです。インスタ映えする
と思います。おいしいものもたくさんあるので、一緒に食べ歩
きますと、距離がより縮まるんじゃないかと思えます。カップル
のデートにはおすすめの場所ですよ。

ありがとうございます。これからはお二人でどのような思
い出を作っていきたいですか？

これからも後で笑えるような思い出を作っていきたいです。
初デートのときに、「こんなこともあったな」と後から笑
える思い出を。とてもシンプルなのですが、後から二人で笑い
合えることが一番大事だと思いますね。今日は天気がとてもい
いので、また新しい思い出を作って帰ろうと思います。



Making of
Hikone Omoide
Photobook
 ひこね 思い出 フォトブック
 Memories Remind





市民が集う憩いの場

日陰もあり、過ごしやすい。休日は家族連れて賑わい、たくさんの子どもが遊んでいる。



並木道を背に

年賀状の写真を撮った、思い出の場所。秋には紅葉が綺麗になるため、季節によって違う景色を楽しむことができる。



庄堺公園

この場所で花見を楽しんだ。公園はとても大きく、野球ができるスペースやバラ園、しょうぶ園などが設置されている。

思い出の場所
06

彦根の良さを表すような、自然の豊かさやゆたかりした設計 家族との思い出が詰まった公園

彦根市開出今町
庄堺公園



岩崎 史都さん
(会社員)
彦根市在住

インタビューー
吉田 光輝
カメラマン
吉田 光輝

遊具で遊ぶ以外にも様々なことをした
家族との思い出がたくさん詰まっています。

岩崎さんは彦根市で生まれ育ったのですか？

いいえ、生まれ育ちは大阪でした。十数年前、仕事の関係で彦根市に引っ越してきました。

そうだったのですか。ではどのようにして庄堺公園を知ったのですか？

彦根のどこに家を建てるかを考えながら、妻とまだ小さい息子と3人で南彦根駅から歩いてきたときに偶然知りました。

素敵な出会いだったんですね。彦根市に住む前に庄堺公園のことを知ったのですか。

はい、そうですね。庄堺公園や駅から続く並木道を見て、いいところだな、と思い、ここに住みたいと思いました。

庄堺公園にはどのような思い出があるのですか？

家族との思い出がたくさんあります。まだ彦根市に慣れていないときから、週末は子どもを連れて遊びにきていました。子ども同士で仲良くなったり、引っ越してきた家族との交流も生まれたりしました。下の子どもができてからも庄堺公園に遊びに来ていました。長い間利用してきたのです。庄堺公園ではどのようなことをしていたのですか？

春には桜が見えるので、家族全員でお花見をしに行きました。また、子どもが小さいときには、補助輪付きの自転車を車に積んで持ってきて、自転車に乗る練習をしていました。遊具で遊ぶのはもちろんですが、それ以外にも様々なことをしていました。

庄堺公園にたくさんさんの思い出があるのですか。庄堺公園で一番

印象に残っているエリアはどこですか？

公園で撮った写真がきっかけで、彦根市の良さを再確認できたことですね。彦根市に引っ越してきてから数年後、大きな並木道のところで家族そろって写真を撮りました。その写真を年賀状にのせ、大阪の友人に送ったら、公園の広さや木の大きさに驚かれたんです。友人の反応を見たことで、彦根市の持つ、ゆとりある街の設計や豊かな自然という良さを改めて確認することができました。

彦根の街は都会に比べるとゆとりと設計されていて落ち着いた感じが特徴です。よね。

そうですね。大阪は街並みがヒシッと整備されていますが、彦根の街は初めから自然に合わせて作られたような感じがして、そうやって自然と共存しているようなところが非常に魅力的です。また、ホームセンターで花の苗を買って庭に植える習慣があることもすごくいいな、と思いました。

今でも公園を利用することはあるのですか？

はい、あります。休日に家から琵琶湖の方にシヨキングをしに行くことがあるのですが、その途中で庄堺公園があるため、並木道の下を通ることがあります。そのとき、小さい子が鬼ごっこをしたり遊具で遊んでいたのを見かけると何かが懐かしい気持ちになります。

息子さんは今もこの公園のことを覚えていてると思いますか？

はい、覚えていてると思います。中学校の通学途中に庄堺公園があったため毎日見ていたと思います。

息子さんはどの遊具がよく遊んでいましたか？

ターザンのようにぶら下がって移動する遊具がよく遊んでいました。身長が足りなくて遊べなかつた頃から気になっていたようで、他の子が遊んでいるのをジッと見つめていたのを覚えています。

庄堺公園に来ることが楽しみな季節はありましたか？

秋に来ることが楽しみでした。並木道の紅葉が綺麗だったため毎年楽しみにしていました。

今もご家族全員で暮らしていらつしやるのですか？

長男以外の家族3人で暮らしています。長男は今高校生となり県外の学校の寮で暮らしています。再会する時が待ち遠しいです。

また息子さんと一緒に庄堺公園に来ることができるといいですね。素敵なお話をありがとうございました。



📷 仙琳寺へと続く道

鉄橋の先には
自然のトンネルのような
風景が見られる。



📷 仙琳寺

階段を上った先には
歴史を感じる巨大な門がある。



📷 青い鉄橋と線路

豊かな自然と列車を同時に写す
撮り鉄スポット。橋もいい味を出している。

思い出の場所 07

”秘密の場所”から”おすすめの地”へ

少年時代、寝台列車を追いかけた思い出の橋

彦根市古沢町
仙琳寺と鉄橋



和田 一繁さん
(50代)
彦根市在住

インタビューー
藤嶋 祐伍
カメラマン
藤嶋 祐伍

時代の分岐点は彦根にあると思っています

よく写真を撮られていた「秘密の場所」の景色は今と昔では違いますか？

景色はあまり変わっていませんね。駅側はオテルなどが建つて少し現代的な風景になりましたが、彦根から米原方面伊吹山の方向は昔の記憶からほとんど変わっていません。その方向を見ると懐かしさを感じるのも今でも好きですね。少年時代に朝方、京都方面から走ってくる寝台列車「ブルートレイン」の後ろのマークを撮りたくて伊吹山の方向によくカメラを構えていました。

電車のマークというのは？

当時、電車の後ろには「さくら」や「はやぶさ」など電車によって様々な模様（ヘッドマーク）が描かれていました。それを写真に収めたくてよく小学生5、6年生の時は行ってましたね。その写真を集めるのが当時の流行りでした。特に僕は「さくら」のヘッドマークが好きでした。

カメラはどのようなものを使われていたのですか？

当時は、フィルムカメラを使っていましたね。一般的な35ミリフィルムよりも小さな、通称「ポケットカメラ」と呼ばれている110ミリフィルムカメラが気に入りました。フィルムを写真屋さんで持つて行って現像するまで2、3日かかるのですが、その間ワクワクしながら「どんな写真が撮れているかな」と待つていましたね。撮った写真がすぐ確認できるデジタルカメラでは味わえない特別な感情でした。

今も鉄道の写真は撮りますか？

昔の電車が今は走っていないので、今はいち撮っていないですね。ただ、テレビの再放送などでブルートレインを見ると「懐かしいなあ」と思いますけどね。最近の電車は近未来すぎて……（笑）。

その「秘密の場所」を見つけたいきっかけはなんでしたか？

友達が近くに住んでいたのですが、当時この辺りは川が流れていて、ザリガニ釣りなんかをして遊ぶ「秘密基地」のような場所でした。自分たちでよく遊びを考えて、日が暮れるまで遊んだものです。

今でもその場所に行くことはありますか？

はい。橋を抜けた先に仙琳寺というお寺があるのでそこにはよく行きますね。この橋の方は少ないですが、銀杏の木が有名でとても綺麗です。鉄橋は今も変わらずそのままですね。当時は、階段とスロープが両方あって自転車とともに上がれる鉄橋は珍しかったです。

その場所を訪れて今、何か感じることはありますか？

鉄道の写真を撮ったりザリガニ釣りをしたりしていた当時はわからなかったのですが、あの辺りは石田三成公との関わりも深いんです。三成が治めた佐和山城もあるんですよ。現在はその辺りで竹を伐採してライトにしたり、「石田三成公を大河ドラマの主役にしよう」とキャンペーンの二環で歴史講座などを開いたり、土地の整備や観光誘致をしたりと、観光に関するイベントにも関わっています。今でも当時の景観が崩れず残っているのが、あの景色は守つていきたいですし、ゲームやアニメの影響で若い世代に戦国武将ブームが来ているように感じるので幅広い世代の方に訪れてもらいたいですね。

最後に、読者に向けてこの場所の魅力のアピールをお願いします。

やはり彦根といえは彦根城のイメージが強いですが、歴史の中では戦いと平和の時代の分岐点は彦根にあると思っています。石田三成公の佐和山城。そして井伊直弼の彦根城。この両城に囲まれた素晴らしい地であるということをもっと知ってほしいですね。

思い出の場所
08

彦根城下を見下ろせるノスタルジックな寺院
過去と未来に思いを馳せて



踏切と
長寿院の鳥居

ノスタルジックな雰囲気風景。
ここを抜けると別の場所に
迷い込んだかのように感じる。



長寿院の
鳥居と山門

自然に溶け込むような佇まい。
階段の途中にあり、
荘厳な雰囲気をしている。



山門が切り取る景色

長寿院の山門から見た彦根城下。
山門が額縁となり、まるで絵画のよう

階段を見ながら上がって、ふと振り返ると彦根城が見えたので驚きました。

ササキさんは長寿院に思い出があるのですね。どのようにして長寿院を知ったのですか？

仕事の関係で紹介され、知りました。当時私は「彦根城をヘットボトルのランタンで照らす」という高校生のアイデアを実現するプロジェクトを行っておりまして。しかし彦根城が夜間立ち入り禁止のためそのアイデアを代わりに実現できそうな場所を彦根市に相談した際、長寿院を候補の一つに挙げていただき、それで初めて長寿院を訪れました。

長寿院に初めて訪れたときはどのように感じましたか？

住宅街の近くにあるのですが、急にノスタルジックな雰囲気になるので、まるで映画の世界に迷い込んだかのように感じました。入口のところに鳥居と踏切があるのですが、踏切がカーンカーンと鳴る様子が、有名なアニメ映画のワンシーンを彷彿させるかのようでした。

一番驚いたことはなんでしたか？

長寿院の山門から彦根城が見えたことです。ランタンが設置できるかなと思いつきながら階段を見ながら上がって、ふと後ろを振り返ると彦根城が見えたのでびっくりしました！彦根城とその城下町が綺麗に山門の中に収まっているように見えて、まるで山門が額縁になった絵画のようだと思いました。

長寿院までの道中はどうでしたか？

すごく雰囲気が良かったです。入口の鳥居と踏切を越えると山の斜面に沿って階段が続いているのですが、木が生い茂っているので、落ち葉があつたり、手つかずの自然を身近に感じることができました。また、階段の途中には鳥居と門があるのですがその壮大さにも驚きました。でも階段が急で少し疲れましたね(笑)。長寿院に着いてから知ったのですが、車で来る道もあるみたいなのでまた来るなら車で来ようと思いました(笑)。

他に来ていた人はいましたか？

少しだけいました。地元の人だったかもしないですね。

地元の人にも知られているところなのですか？

そうですね。長寿院は地元の人から「弁天さんの愛称で呼ばれていて、お正月には初詣に来たり、よくお参りに来たりするそうです。今はどうかわからないのですが、昔はお祭りのときに甘酒を振る舞っていたそうです。ですが歩いていく人はいなくなりましたね(笑)。

地元の人に愛されていたお寺だったのですか、また行きたいと思いましたが？

はい、次は車で行きたいと思えます(笑)。特に夏場は車がいいですね。

行きたい季節や時間帯はありますか？

紅葉が見えるときに行きたいです！紅葉が見えるかどうかは分からないですけど(笑)。時間帯は雰囲気がよさそうなので夕方がいいですね。

どんなときに訪れたいですか？

リフレッシュしたいときに訪れたいです。長寿院が日常から切り離されたような空間だと感じて、疲れがあつても忘れられそうな気がしたので、何か悩みがあつたときにまた来ようと思いました。

長寿院から見た彦根城は普段見ているとは何か違いはありましたか？

いつもは下から見上げていたのですが、同じ高さから見ると何だか新鮮でした。普段は建物が多いから彦根城が近くにあるという意識が薄れてしまつたこともあるのですが、長寿院から見ると改めて歴史のある城下町に住んでいるのだと再確認できました。昔の人も同じように長寿院から彦根城を眺めていたのかなと考えていました。

昔の人もこうやって見ていたのか、と思いを馳せながら彦根城を見るのはすごく風情がありますね。時代が変わつても、そこから見える彦根城と見る人の想いは変わらないのかも知れませんね。本日は素敵なお話をありがとうございました。

彦根市古沢町
大洞弁財天 長寿院
QRコード

ササキ マチコさん
(会社員)
彦根市在住
インタビューー
吉田 光輝
カメラマン
吉田 光輝

思い出の場所
09

自然光×全身写真で親友との思い出を残す
初めてのお揃いを”映える”一枚に



おすすめの撮影方法

二階の白い壁で撮影した写真を表示したスマホを持って、一階のヤシの木の前で撮影した一枚。



📷「ピバシティ」
二階の白い壁

親友と初めてのお揃いの服で撮影した一枚。全身が写っていて服装もわかりやすい。

📷全体図

「ピバシティ」二階の白い壁の前。開放感のある吹き抜けからは一階から伸びるヤシの木が見え、大きな窓からは自然光が入ってくる。



彦根市竹ヶ鼻町
「ピバシティ」二階の白い壁

PN S・Hさん
(10代・高校生)
彦根市在住

インタビュー
杉本 実優

カメラマン
S・Hさん

窓が大きいから、引いても寄ってもちゃんと自然光で”盛れる”んです

「ピバシティ」の二階の白い壁の前で親友と撮影した写真を何枚か見せてくれましたが、とても上手に撮れていますよね。撮影する際のポイントなどはありますか？

この写真は「ピバシティ」二階の白い壁に初めて行った時に撮りました。引きの写真を撮るときには下に携帯を置いて、タイマーで何枚も撮影しました。まず白い壁で全身の写真を撮り、それを持って一階に降りて、さき写真を撮ったスマホと一緒に、ヤシの木の前に撮影するんです。その撮り方がめっちゃおススメで映えます。でも服装にもよると思うんですよ。カジュアル系の服装だったらヤシの木やスマホと写すのがすごく良いなって思っています。注意点としては、お昼に撮らない方がいいことです。夜は自然光があまり入らなくて……。夜にも一回行っただけですけど、蛍光灯の光だけで自然光がないから、ちょっと寂しげな感じになってしまったんです。この写真ではお友達とお揃いの服を着ていますよね。どういった経緯でお揃いの服を着て撮影することになったんですか？この写真を見て何か思い出はありますか？

その友達とはとても長い付き合いで、ずっとお揃いが欲しかったんです。それでお揃いの服を買おうということになり、アウトレットに行きました。それが、初めて二人でお揃いを買ったときだったので、すごく嬉しくて、「次に一緒に遊ぶときに揃いの服を着て撮りたいね」という話になり、「ピバシティ」に行くことになったんです。でもフリだと上半身しか撮れないので、全身写真を撮るのに何かいい場所ないかなあって思っていたんです。そこで

二階の白い壁を見つけて、その前で写真を撮りました。それ以降もここで撮影することはあるのでしょうか？
よく行きます。「ピバシティ」に行くときは絶対寄って帰るといっ話になります。フリを撮った後にでもすぐ行って便利なんです。
「ピバシティ」自体にはよく行くのでしょうか？最初この場所を知ったきっかけを教えてください。
「ピバシティ」には結構行きます。でもこの白い壁はあまり外から目立たなくて。だから存在しているのは知っていたのですが、行ったことはなかったんです。友達に、「あの白い壁は自然光が入ってめちゃ綺麗に盛れるから良いよ！写真撮りに行くよ！」と言われて初めて行きました。そこで撮影したらすごく良くて「おっ〜いい写真！」ってなっ。

ここは中高生の中では有名な「映えスポット」と聞きました。私が初めて知ったときには自分たちの周りくらいしかこのことを知らなかったのですが、そこで撮影した写真がとても良かったので自分たちで他の友達にも広めていって。そうしたらその友達が他の友達にも薦めていったので、「口コミ」が少ずつ広まってきていると思います。撮影しに行こうと思ったら、たまーに知っている子とタイミングが被って、「あー知られてたか〜」ってなりますね。このインタビューが公開されたら、「ピバシティ」の白い壁の良さがもっと広まってしまってもいいですね！

構いませんよ！今のうちにみんな行っちゃえーみたいな、せつかくの青春なので、制服で撮ったら最高ですよ。まだ全然そこまで人はいなくて、まあまあ穴場だと思います。私の中学生の妹も友達と行ってるくらいなので、これからはたくさんの人にこの場所の魅力を知ってもらえるとうれしいです。

最後に、ここで写真を撮ることの魅力を教えてください。
なんか、白い背景って写真館みたいじゃないですか。だから本当にきれいに撮れるんですよ。しかも、ここは白い壁がすごく大きいので、そこも結構良いなと思っています。先に誰かが居ても写らないので、隣で撮影できますし、窓が大きいから、引いても撮っても寄ってもちゃんと自然光で盛れるんですよ。季節とか関係なくいつでも良いので、ぜひ皆さんもここで思い出の盛れる写真を撮ってみてください。

思い出の場所
10

すらりと並んだ木々をゆっくりと撮影する
父が見つけたとっておきの場所

もしお父さんが教えてくれなかったら
並木があることに気付かなかったです



PN S・Kさん
(10代・中学生)
彦根市在住
インタビュー
杉本 実優
カメラマン
S・Kさん

金亀公園の並木に初めて行ったのはいつですか？

中二のときに、家族みんなで遊びました。今までは公園の遊具で遊ぶことはあったんですけど、並木には行ってなくて。私たちが遊具で遊んでいて、お父さんが散歩をしていた時に並木を見つけて「こめっちゃ綺麗やで！写真撮ろうよ！」と言ってくれて、家族で写真を撮りました。もしお父さんが教えてくれなかったら並木があることに気付かなかったです。遊具で隠れていて見つけにくいんですよ。お父さんは写真を撮るのが好きで、しかもとても上手なんです。

そうなんです。並木に行く際におすすめの時期や時間帯はありますか？

夜は暗いのであまりおすすめできませんが、一年を通してその季節ごとの良さがあるので、どの季節でも良いと思います。秋は黄色やオレンジ色で、春とか夏でもすごく綺麗な、鮮やかな緑で、冬も雪があつて綺麗なんです。中でも私のお気に入りの季節は秋です。

並木といえは、高島市のメタセコイヤ並木も有名ですよ。

はい。そこも家族で行きました。そのときも綺麗だなと思って写真を撮るべく撮影しました。友達とも撮影したかったのですが、高島市のメタセコイヤ並木は遠いかなと思ってたところに金亀公園の並木を見つけて。家の近くにもこのような場所があつて、綺麗な写真が撮れることに感動しました。

思い出が詰まったお気に入りの場所なのですね。どのくらいの頻度で行きますか？

頻度は月2回くらいですかね。基本は友達と行くことが多いです。写真を撮ったり、鬼ごっこをしたりしています。3〜4人で行くことが多いですね。走るのが好きなので、中学生になつてからも鬼ごっこをして行ってます。

運動部に所属していると聞いたのですが、鬼ごっこをする周りの友達に圧倒してしまわないですか？

いや、みんな運動部なので大丈夫ですよ！みんな速いからもうすぐとタシユです。お菓子を買って、鬼ごっこして、遊具で遊んで、並木に行つてちよと落ちて、それから帰ろう、みたいな。

元気に遊んでいらっしゃるんですね！ではもう結構長い間滞在しているのでは？

公園だけで3〜4時間くらいいます。水曜日は部活がないから15時くらいに学校が終わるのですが、そのあとに公園行くことになつたら18時くらいまでいるんですよ。みんな「今日は体操服に着替えて集合な！」って言って、学校の体操服に着替えて行きます。公園には小さい子もいるのですが、並木の方には全然いないので、思う存分走ったり写真を撮つたりして遊んでいます。

最後に、金亀公園の並木のおすすめポイントを教えてください。

広々としていて、車が通らないんです。高島市のメタセコイヤ並木は、真ん中に車道があるので、写真を撮ろうと思つても少し危ないと感じることもあつて、でも、金亀公園の並木には車道がなくて、車が通らないので安全に、ゆっくりと写真を撮ることができると。しかも、まだまだあまり周りの人に知られていないので、撮影した写真に人が写り込まないところもお気に入りです。一年でいろいろな写真が撮れると思うので、好きな季節に撮つてみたいと思います。



春の並木

5月頃に金亀公園の並木で友人と撮影したお気に入りの写真。鮮やかな緑の葉が生い茂っている。

秋の並木

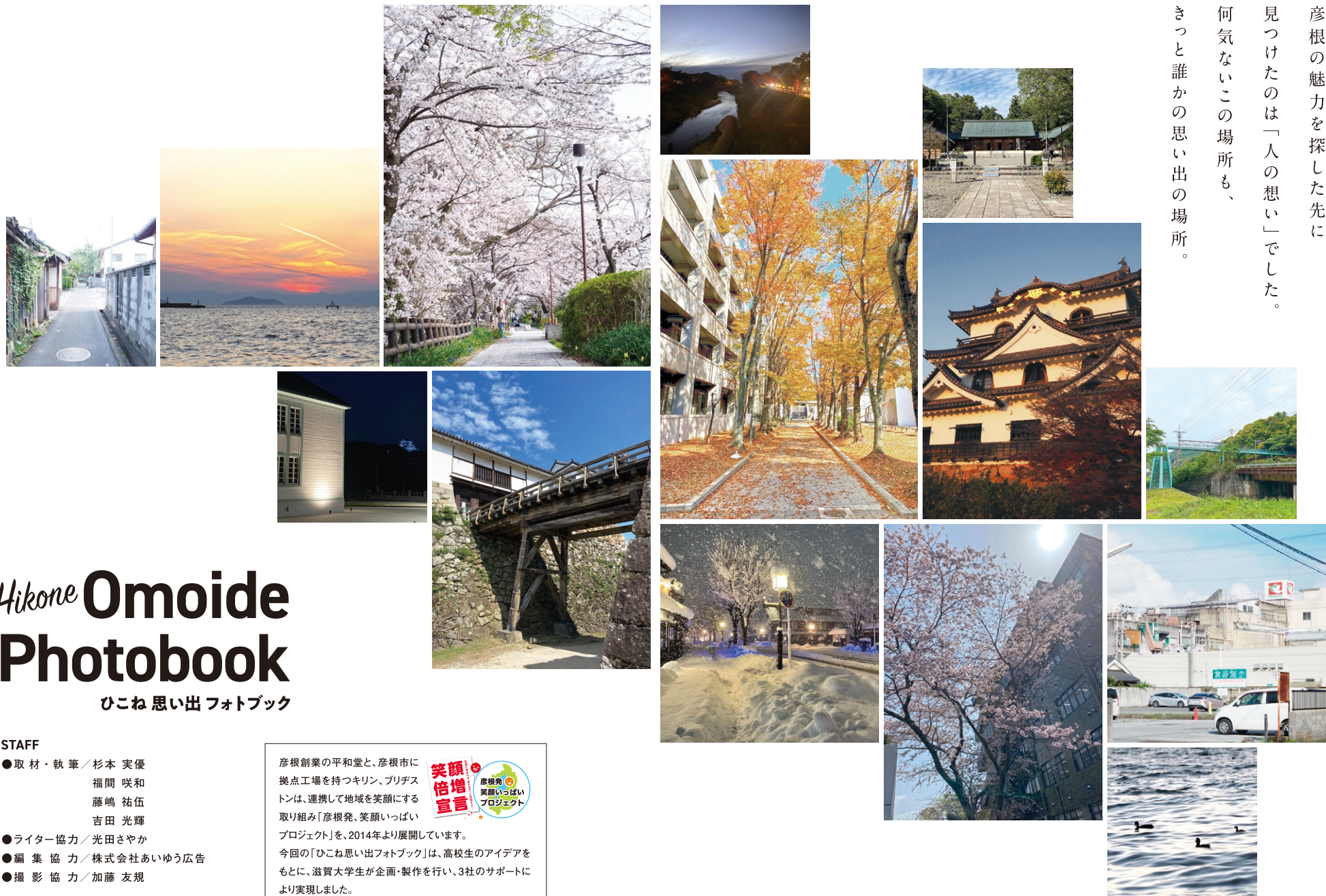
11月頃に撮影した金亀公園の並木。春とは違った印象になる。



木陰で友人と談笑するS・Kさん

「木陰に腰掛けていろいろな話をするんです」と話すS・Kさん。あまり人がおらず、ゆっくり撮影することができる。

彦根の魅力を探した先に
見つけたのは「人の想い」でした。
何気ないこの場所も、
きっと誰かの思い出の場所。



Hikone Omoide Photobook

ひこね 思い出 フォトブック

STAFF

- 取材・執筆 / 杉本 実優
福間 咲和
藤嶋 祐伍
吉田 光輝
- ライター協力 / 光田さやか
- 編集協力 / 株式会社あいう広告
- 撮影協力 / 加藤 友規

ひこね思い出フォトブック 2022年8月発行

彦根創業の平和堂と、彦根市に
拠点工場を持つキリン、プリヂス
トンは、連携して地域を笑顔にする
取り組み「彦根発、笑顔いっぱい
プロジェクト」を、2014年より展開しています。

今回の「ひこね思い出フォトブック」は、高校生のアイデアを
もとに、滋賀大学生が企画・製作を行い、3社のサポートにより
実現しました。

